

平成28年2月2日

村上市長 高橋 邦芳 様

荒川地区地域審議会
会長 会田 健次

第2次村上市総合計画策定に向けての提言書

当地域審議会では、地域における「日常生活の課題と解決するための方向性」について審議いたしました。

その結果について、下記については特に重要な事項であるとして、第2次村上市総合計画を策定するにあたり、ここに提言いたします。

記

1. 安心して子育てと仕事が両立出来る環境整備について

核家族化が進み、夫婦共働きで子どもを育てている世帯及び一人親世帯が多くなっています。そのため、子育ての悩みを相談することが出来ず子育てに不安を抱えている人がいます。子どもを預かってもらえる人がおらず、産休・育休明けで保育園を利用しようと思っても、地区内の保育園が利用出来ない人や、兄弟で別々の保育園に通わなければならない人がいます。安心して子どもを産み育てられる地区であるために、病児・病後児保育をはじめとする保育行政の充実を図るとともに、地域で子どもを育てる取り組みを育成、支援していく必要があります。

2. 高齢者の生活支援について

高齢化と核家族化で、高齢者の単身もしくは2人暮らしという世帯が増加しています。当地区には、大型店や県立坂町病院をはじめ複数の医療機関があり、住環境は比較的整ってはいるものの、反面、地域を支えてきた商店が閉店するなど、移動手段を持たない人にとって、日々の買い物に不便をきたしていたり、蛍光灯の交換など日常生活のちょっとした事を頼める人が近くにいなかったり、決して住みやすい場所ではなくなってきました。いつまでも、誰もが安心して暮らせる地区であるために、公共交通の利便性の向上並びに雪下ろしなどの現行の生活支援制度の継続・拡充を図るとともに、地域の力を活用した小さな拠点整備や見守り隊などの地域で支える仕組みづくりを推進していく必要があります。

3. 地理的条件を活かした賑わいの創出について

当地区は、鉄道のまちとして発展し、坂町駅及び駅周辺は人の往来も多く賑わいを見せていました。しかし、今の坂町駅は人を集め拡散させる機能を失い単なる通過点となったことで、駅前から賑わいが失われてしまいました。村上市と東北地方には、「日本海きらきから羽越観光圏」という海に面した縦軸の広域観光圏があり、村上市には東北地方に向けてのゲートウェイとなり得る可能性があります。当地区がゲートウェイとしての核をなす地域となり、再び賑わいのある地区となるために、米坂線・新潟山形南部連絡道路を軸にした内陸に向かっての広域観光圏を創設し、村上市（荒川）を基点とした新たな人・物・情報の流れを創りだすとともに、既存の観光圏等と連携した魅力ある事業を積極的に展開していく必要があります。

4. 誰もがいつでも学べる環境の創出について

文化は、人間を豊かにします。また、地域を豊かにします。ここに住む人の人間力を育み、そして地域への愛着を育み次世代へ地域文化を継承していくために、住民一人ひとりが、自分にあった分野やレベルの芸術文化を楽しむことができる環境づくり、また、様々なステージにおいて地域文化を学ぶ機会を増やす取り組みと併せて、これらを地域の力で支え育てていく仕組みづくりを推進していく必要があります。

5. 金太郎飴行政からの脱却について

5つの地域それぞれに求められているものが違います。地域が抱える課題が違います。行政に対し求めるものが違います。そして、あるべき姿も違うはずです。これまでのように、全地区一律の対応を取るのではなく、地域提案型事業制度の導入など、地域の声を取り入れ、地域の特性を活かした対応が取れる仕組みを構築する必要があります。併せて、合併して8年、期日前投票に多くの地区外の人が荒川支所を利用するなど、住民が支所に求める機能が変化してきていることを踏まえ、各支所の在り方の検討を行い、地域の実情に合った住民サービスが提供できる体制づくりを推進していく必要があります。

6. 若者が暮らしやすいまちづくりについて

当地区では、かつて行政主導で若者向けの宅地分譲を行い、子育て世代の定住に一定の成果をあげてきました。少子高齢化、人口減少問題は、何も村上市だけの問題ではありません。全国どの市町村もこの問題の解決のために様々な施策を行っており、他市町村と同じような施策を行っては問題解決にはなりません。この地域間競争を勝ち抜き若者の定住を促進するためには、当地区の特性・優位性を活かして企業誘致や県立坂町病院の機能強化をはじめとする住居環境の整備、そして若者向けの宅地分譲及び公営住宅の整備といった生活基盤づくりへの支援など、若者が定住できる環境づくりを推進していく必要があります。

なお、地域審議会において審議された意見を別冊にまとめましたので併せて提言いたします。

日常生活の課題と解決に向けた方向性について

荒川地区

現状と課題	解決するための方向性
<p>①子育て</p> <p>1. 近くに子どもが思いっきり遊べる場所がない。特に、雨天時に利用できる施設がない。</p> <p>2. 医師不足などで、県立坂町病院の本来あるべき機能が十分に果たされていない。</p> <p>3. 安心して子育てと仕事が両立できる環境になっていない。</p> <p>②買い物</p> <p>1. これまで地域の生活を支えてきた商店が廃業するなど、身近に買い物ができる場所が減ってきている。また、家族で買い物を楽しむ場所がないため、地区外に出かけなければならない。</p> <p>2. 日々の買い物に困っている人が増えてきている。</p> <p>③交通</p> <p>1. 現在運行されている公共交通は、行き先が限られていて、買い物での利用など地域住民のニーズに合った運行がされていない。</p> <p>2. 鉄道の要所として繁栄を遂げてきた町だが、駅前から人通りがなくなり、以前のような賑わいがなくなってしまった。</p> <p>④教育</p> <p>1. 小中学校の冬期間の登下校時送迎バスの運用基準が厳しすぎる。</p> <p>2. 子どもが安心して遊べる場所がない。特に夏季には、各集落のプールは利用できなくなり、身近に泳ぐ場所がなくなった。</p>	<p>①子育て</p> <p>1. (1) 総合型スポーツクラブを活用して、子どもの放課後の過ごし方を支援する。 (2) 子どもたちが自然に親しみ、自由な遊びにチャレンジ出来る環境整備を図る。</p> <p>2. 胎内市・関川村と連携して、県や関係機関への要望活動を継続して推進する。</p> <p>3. (1) 保育行政の充実を図る。 (2) 地区内の保育園の運営方法を統一する。 (3) 県立坂町病院での病児・病後児保育施設を整備する。 (4) 地域の力を活用した地域内で子育てを支援する取り組みを育成・支援する。</p> <p>②買い物</p> <p>1. (1) 都市計画の中で、坂町駅前及びその周辺地区を一体的にゾーニングし、新たな機能を付加していく。 (2) 用途地域の見直しを行い、事業所の進出を誘導する。</p> <p>2. (1) 公共交通の拡充を図る。 (2) 地域内の茶の間となりうる小さな拠点を整備する。 (3) 集落等のコミュニティーを活用した地域で支え合う体制の構築を図る。</p> <p>③交通</p> <p>1. 公共交通の利便性の向上を図る。</p> <p>2. (1) 米坂線整備促進期成同盟会と連携し、村上市から発信するイベント等を実施する。 (2) JR米坂線、新潟山形南部連絡道を軸とした広域観光圏の創設を推進する。</p> <p>④教育</p> <p>1. (1) 同一集落の小中学生の対応を統一する。 (2) 児童・生徒の健全育成を踏まえ、バスの運用基準の見直しを行う。</p> <p>2. (1) 学校プールが開放できるよう、施設及び体制の整備を進める。 (2) プレーパークの導入を推進する。</p>

現状と課題	解決するための方向性
<p>3. 気軽に芸術文化に触れ学ぶ機会が失われつつある。また、地域の伝統文化に接し学ぶ機会が殆どない。</p> <p>4. 子どもが等しく学ぶ機会が確保出来る場所、制度がない。</p> <p>⑤行政</p> <p>1. 会議後の飲食が少なくなり、全体的に人の動きがなくなり地域の活力がなくなっている。</p> <p>2. 行政の縦割り・横並び主義が、地域の声を政策に反映させることを拒み、住民サービスの低下を招いている。</p> <p>⑥その他</p> <p>1. シンボリックな場所・物がなく、県外出身者などは地域の魅力を感じにくい。</p> <p>2. 人口減少・少子化対策で、荒川地区の特性、優位性が活かされた若者に魅力のある施策が行われていない。</p> <p>3. 地域内で活動している各種団体の連携ができていない。</p> <p>4. 自然環境に対する理解や保全意識が不足している。</p> <p>5. 独身者が多く、家を守る人が途絶える可能性のある世帯が増えてきていて、将来集落の維持が難しくなってくる可能性がある。</p>	<p>3. (1)文化活動への支援を拡充する。 (2)地域の魅力を学ぶ取り組みを推進する。 (3)活動団体と行政との協働事業の創出を図る。</p> <p>4. (1)奨学金制度を個々の状況に応じて柔軟に対応ができるよう制度の見直しを行う。 (2)地域内で学習意欲のある子どもを支援する取り組みを推進する。 (3)保育園及び学校で、障害を持った子どもを受け入れられる体制の更なる充実を図る。</p> <p>⑤行政</p> <p>1. (1)支所機能の充実を図る。 (2)以前行われていた「花まつり」などのように、地域の力による賑わいを生む取り組みの創出を図る。</p> <p>2. (1)地域課題の解決や地域を活性化するための提案型事業制度の導入を図る。 (2)市民と行政との協働事業の拡充を推進する。 (3)支所機能の充実を図る。</p> <p>⑥その他</p> <p>1. 地域の魅力を学ぶ取り組みを推進する。</p> <p>2. (1)行政主導による若者向けの宅地分譲を行う。 (2)若者向けの公営住宅の整備を推進する。 (3)現行の補助制度を見直し、若者及び地区外からの転入者の住宅購入に対する支援の拡充を図る。 (4)宅地開発業者への支援を行う。 (5)用途の見直しにより企業が進出しやすい環境を整備し、企業誘致を推進する。 (6)県立坂町病院の機能強化を促進する。 (7)各種サービスがワンストップで受けられる体制を整備する。</p> <p>3. 地域内の年間行事カレンダーを作成し、全戸に配布する。また、Web上に最新のカレンダーを掲載し、地域内の見える化を推進する。</p> <p>4. ホタルの里づくりの活動を地区全体に広めていく。</p> <p>5. (1)婚活事業の拡充を図る。 (2)民泊など空き家を活用した取り組みを集落が主体となって行うための制度を構築する。</p>